

No. C01	Aグループ	年月日	令和3年6月27日(日)
---------	-------	-----	--------------

【設問1】事例記録の中の「相談の概要」（略A）の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

保育士を目指していたが、現場の大変さを知って、このまま保育士になることを不安に思っている。  
他の仕事のことを考えたことがなく、これからどうしたらよいのか分からなくなっている。

【設問2】事例記録の下線Bについて、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で質問を行ったと考えるかを記述せよ。

実習の前と後で相談者の保育士に対するイメージが具体的にどう変わったかを考えて、仕事理解を促すことと、相談者にとって長く続けられる仕事についての自己理解を意図した。

【設問3】あなたが考える相談者の問題（①）とその根拠（②）について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。

①問題 母から勧められこと、子供が好きだったことを理由に、仕事に対する自分の価値観を深めずに保育士を決めてしまった。他の仕事を考えたことがなく、仕事理解が進んでいない。

②その根拠 母から将来も安定した仕事だからと勧められたこと、子供が好きだったので、何となく保育士を目指すことにした等の発言から。また、この仕事をやれるのか自信がなく、他にやりたい事がある訳でもない。何に向いているか分からず、これからどうしていいか分からない等の発言から。

【設問4】 問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

まず、母に保育士を勧めた理由を改めて聞いていただき、子供を好きなことの他にも保育士を目指した理由を改めて考えることで、自己理解を進めていただく。現場の先生たちの様子から知った大変さと、相談者が長く仕事を続けるために必要な要素を整理してもらい、保育士をいい仕事だと思える理由をお聞きして、仕事に対する価値観を深めていただく。身近な存在の姉から仕事の話を具体的に聞くことで、他の仕事についての仕事理解も促す。これらにより相談者がこれからどうするか自己決定の最適化を支援する。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。

No. C02	Bグループ	年月日	令和3年6月27日(日)
---------	-------	-----	--------------

【設問1】事例記録の中の「相談の概要」（略A）の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

相談者が保育士の仕事をやっていけるのか自信がないし、資格も取れるけれどこれからどうしてよいか分からないし、何に向いているのかも分からないという不安だと思う。

【設問2】事例記録の下線Bについて、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で質問を行ったと考えるかを記述せよ。

保育所の実習を経験したことで、自分が思っていた仕事とは違って、長く仕事を続けていけるのかと相談者が内省を促し、自己理解を深めるためだと思う。

【設問3】あなたが考える相談者の問題（①）とその根拠（②）について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。

①問題 相談者のキャリアビジョンが定まっておらず、保育士の仕事に対しても仕事理解がなく、特に他に何かやりたいこともなく、自己理解が不足していると思う。

②その根拠 保育士の仕事は、自分が思っていた仕事とは違うのかなと思うようになり、長く続けられるか不安でモチベーションが下がったという発言や、特に他に何かやりたことがある訳でもないし、何に向いているのか分からないという発言から読み取れる。

【設問4】 問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

まずは相談者の自己理解を深めるために、自分の強み・弱み・興味のあること等の棚卸しを進める。また、相談者が今後どのような自分になりたいのか、もう一度振り返ってもらう。現在は、学生なので大学の保育士で働いている先輩方ともコミュニケーションをとっていただき、保育士の仕事理解が深められるように支援する。そして、自分は何に向いているのか分からないということから、キャリアインサイトも紹介してみる。今後の相談者のキャリアプランについて、主体的に意思決定できるよう支援していく。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。

No. C03	Aグループ	年月日	令和4年6月19日(日)
---------	-------	-----	--------------

【設問1】事例記録の中の「相談の概要」（略A）の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

保育士を目指していたが実習で大変さを知り、保育士になることに不安や迷いを感じ始めている。他の仕事に関する情報や選択肢がなく、どうしたらよいかわからなくなり、相談に来た。

【設問2】事例記録の下線Bについて、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で質問を行ったと考えるかを記述せよ。

相談者の言葉を繰り返し伝えることで共感的理解を示す。また、相談者自身に気づきを与え「思っていた仕事」や「違う」と感じたことは何か、内省を促し自己理解を深めるため。

【設問3】あなたが考える相談者の問題（①）とその根拠（②）について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。

①問題 相談者の主な問題は次の3点である。(1)自分自身が何をやりたいかの自己理解不足。(2)保育士やその他の仕事に対する仕事理解不足。(3)他にどんな仕事を選択できるかの情報収集不足。

②その根拠 (1)「何かやりたいことがある訳ではない」と感じている点。(2)保育士の仕事に対して「思っていた仕事と違うかな」と感じており、「事務の仕事ってずっと座ってるような仕事」と思っている点。(3)「他にやれる事があるか」「何に向いているのかよくわからない」と情報が少ないと思われる点。

【設問4】問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

まずは、相談者がこれまで学んできたことや経験を振り返りながら、設問3で上げた問題を解消するため、次の方策を実施する。(1)楽しいと感じる時や充実感を覚えるのはどんな時かを問いかけながら、内省を促す。(2)改めて保育士や姉に仕事内容を聞く機会を設け、それぞれの仕事内容の理解を深められるようにする。(3)仕事や職種に関する知識を身につけられるよう情報提供し、相談者自身が調べて必要な情報が得られるようにする。以上を実施することで相談者が前向きに職業選択できるよう支援していく。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。